

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(小学校用)

都道府県名	埼玉県
-------	-----

学校の概要 (平成 15 年 4 月)

学校名	鷲宮町立桜田小学校								
学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	3	3	3	1	18	27
児童数	66	104	84	85	105	120	3	567	

研究の概要

1. 研究主題

自ら考え 正しく判断し たくましく行動する子の育成  
 個に応じた効果的な少人数指導の研究 (算数)  
 選び・考え・確かめる子の育成

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

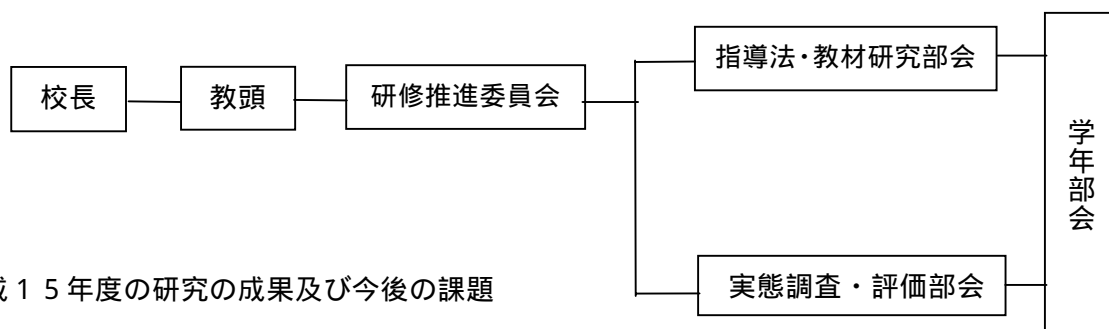
<p>・1~6年・算数                  児童の習熟の度合いに差が出やすい教科であるため、児童に確かな学力を身に付けさせる中心の教科として算数を考え研究・実践した。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ                  自ら考え 正しく判断し たくましく行動する子の育成                  個に応じた効果的な少人数指導の研究 (算数)                  選び・考え・確かめる子の育成</p> <p>研究の見通し (仮説)                  少人数指導を取り入れ、個に応じたきめ細やかな指導をすれば、基礎・基本の確実な習得とやる気の一層の向上が図れるであろう。</p> <p>研究の内容・方法                  少人数指導が日常的に授業の中に取り入れられるように、指導方法・指導体制を研究し、少人数指導を指導計画に位置付け実践する。                  単元評価計画の評価規準・評価基準の作成により、個に応じたきめ細やかな指導を実践する。                  評価を生かし、児童の自己評価の力を育成すると共に授業を工夫改善する。</p>
--------------------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ                  自ら考え 正しく判断し たくましく行動する子の育成                  個に応じた効果的な少人数指導の研究 (算数)                  選び・考え・確かめる子の育成</p> <p>研究の見通し (仮説)                  少人数指導を取り入れ、個に応じたきめ細やかな指導をすれば、基礎・基本の確実な習得とやる気の一層の向上が図れるであろう。</p> <p>研究の内容・方法                  少人数指導が日常的に授業の中に取り入れられるように、指導方法・指導体制を研究し、少人数指導を指導計画に位置付け実践する。                  単元評価計画の評価規準・評価基準の作成、発展的な教材や補充的な教材の開発により、個に応じたきめ細やかな指導を実践する。                  評価を生かし、児童の自己評価の力を育成すると共に授業を工夫改善する。</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 少人数指導における学習コース選択の工夫

学習コースについて

週あたり算数 1 年 3 時間、2~6 年 4 時間について少人数指導を実施している。学習コースの選択にあたっては、児童の選択を基本としている。児童にコース選択をさせることにより、主体的に学習に参加できるようにするとともに、自ら学ぶ力を高める。

1 年生・・・資料をもとに、保護者・児童が選択し、教師が助言する。

2~6 年生・・・資料をもとに、保護者の理解に基づいて、児童が選択し、教師が助言する。

学年	SS	学級均等 SS	学級習熟 SS	学年均等 SS	学年習熟 SS	学年課題別 SS	備考
1		○	○			・	指導形態の バランスを 考えて実施
2	○	○	○			・	
3	○	○	○		○	・	
4	○	○	○		○	○	
5	○	○	○		○	○	
6							

SS・・・1 学級に 2 人の教師で、小集団をつくり指導

学級均等 SS・・・人数を機械的に学級 2 分割

学級習熟 SS・・・習熟の度合いに応じて学級 2 分割

学年均等 SS・・・学年習熟 SS の前段階として

学年習熟 SS・・・習熟の度合いに応じて学年を分割

学年課題別 SS・・・児童の興味・関心別の課題毎に分割

振り返りテスト・コース学習案内を活用した学習コースの選択について

学習コースの選択にあたっては、児童のより良い選択ができるように、振り返りテスト(既習事項確認テスト)・コース学習案内の資料を基にしたガイダンスをおこなっている。

たしかめカード・保護者への手紙の活用による学習コースの選択について

児童は、毎時間、自己評価をおこなうことにより学習内容の習得の度合いを確認し、より良い学習コースの選択に生かしている。1 年生においては、保護者・児童が選択し、教師が助言して学習コースの選択をおこなっている。保護者への少人数指導の手紙や学習の成果(振り返りテスト等)をもとに、より良い選択ができるようにしている。

「実践のポイント」

- ・たしかめカードは、児童が短時間で学習内容の習得について、自己評価がおこなえるように工夫する。

- ・1 年生児童には学習コースを選択することはむずかしい。児童・保護者の意向を尊重しながら、学習コースが選択できるように配慮する。

「実践のポイント」

単元の中で、複数回のコース選択の機会を設けることにより、自分に一番あったコースで学習が進められるようにする。

(2) 指導案の工夫による授業改善

単元評価計画の活用による個に応じた指導

実践事例 5 年 算数

単元名「平行四辺形と三角形の面積」1 2 時間扱い(11 月上旬~11 月中旬)

目標

- ・平行四辺形や三角形の面積の求め方を理解し、それらの面積を求めることができる。
- ・いろいろな平面図形の面積について、既習の図形の面積の求め方をもとに考えたり、活用したりする能力を伸ばす。

【関心・意欲・態度】・平行四辺形や三角形などの面積を求めるときに、既習の経験を進んで用いようとする。

【数学的な考え方】・既習の面積の求め方をもとにして、平行四辺形や三角形などの面積の求め方を工夫して考える。

【表現・処理】・平行四辺形、三角形などの面積を求めることができる。

【知識・理解】・平行四辺形、三角形などの面積の求め方を理解する。

小単元名	時	目 標	学 習 活 動	主な評価規準	評 価 基 準	学習形態・教材
平行四辺形の面積の求め方	1・2	平行四辺形の面積の求め方を考え公式を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行四辺形の面積の求め方を既習の図形に帰着して考える。</li> <li>・長方形に等積変形する平行四辺形の面積の求め方を説明する。</li> <li>・平行四辺形の面積を求める公式を考える。</li> <li>・公式をつくるには、等積変形した長方形のどこの長さが分かればよいかを考える。</li> <li>・「底辺」「高さ」の意味を知る。</li> </ul>	関 平行四辺形の面積を既習の図形の求積と関連づけて工夫して求めようとしている。 考長方形の面積の求め方に帰着して、平行四辺形の面積の求め方を考えている。	A 等積変形や倍積変形して面積を求める時に多様な方法で考えようとしている。 B 既習の図形に変形したり、方眼などにして面積を求めようとしている。 C 既習の図形に変形しようとしている。長方形や正方形の性質を想起させる。  A 平行四辺形の面積の公式の意味を理解し、説明することができる。 B 友達の話や聞くなどして、公式の意味を理解している。 C 平行四辺形と長方形の求積が似ていることが分かる。求積には、底辺と高さを見出すことが大切であることに気づかせる。	学級均等 SS 補 長 方 形・正方形の面積の求め方
		平行四辺形の面積の公式を理解しそれを適用して面積を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行四辺形の面積を求める公式をまとめ、公式を適用して面積を求める。</li> </ul>	考等積変形した長方形の縦と横の長さに着目して、平行四辺形の面積の公式を考えている。 表 平行四辺形の面積の公式を用いて面積を求めることができる。	A 平行四辺形の面積を求める公式を理解し、公式を使って、いろいろな平行四辺形の面積を正しく求めることができる。 B 平行四辺形の面積を求める公式を使って、いろいろな平行四辺形の面積を求めることができる。 C 底辺と高さを見つけようとしている。それぞれの線を色分けさせる。	学級習熟 SS

工夫点 単元評価計画の形式について

- ・全単元の単元評価計画を作成した。毎時間の目標、学習活動、主な評価規準・評価基準、学習形態・教材を一覧で作成し、計画的に少人数指導が進められるようにした。

工夫点 主な評価規準・基準について

- ・評価規準・・・毎時間の評価規準に4観点を位置付け、単元を通して4観点について見とり、児童に応じて具体的な支援ができるようにした。
- ・評価基準・・・毎時間に一つの評価規準の観点について、ABCの評価基準を設けた。特に、Cの評価基準については、で、具体的な支援の方法を明記し、これをもとに指導の打ち合わせをし、個に応じた指導が具体的にできるようにした。

工夫点 学習形態・教材について

- ・学習形態・・・学習形態をSS、学級均等SS、学級習熟SS、学年均等SS、学年習熟SS、学年課題別SSとし学習形態の欄に位置付け計画的に少人数指導が進められるようにした。(学習形態の詳細は、「少人数指導における学習コース選択の工夫」参照)
- ・教材・・・当該学年以前の学年や前の単元で扱った内容については補と明記し、補充の学習が充実するようにした。

(3) 成果のまとめ

- ・単元評価計画を作成し、児童の習熟・課題等に応じて指導形態を考え少人数指導を実践した。その結果、児童は、自分にあった学習を選び学習が進められるようになった。
- ・特に評価基準Cの児童に対する指導の手だてを単元評価計画に明記し、個に応じた指導の充実を図った。
- ・補足的な学習を可能にするために、単元評価計画に補充教材を明記した。
- ・「たしかめカード」で自分の学習を振り返って考えることができるようになった。
- ・児童、保護者の少人数指導に関する実態調査を実施し、少人数指導についての児童・保護者の理解や浸透の度合いの共通理解を図った。

2. 今後の課題

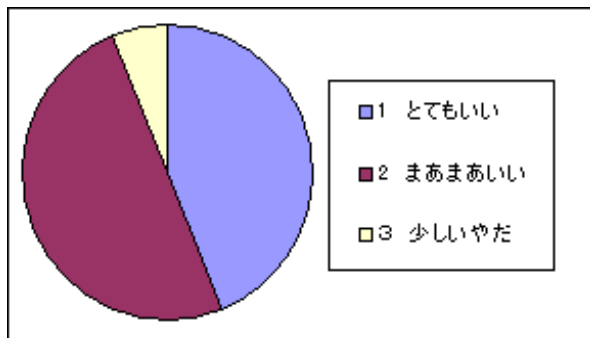
- ・一つの指導形態にかたよることなく、児童の実態・指導内容にふさわしい指導形態を検討・実践し、バランスよく単元評価計画に明記し少人数指導を実践したい。
- ・児童(保護者)の選択を尊重しながら、児童が自分にあったより適切なコース選択ができるように「振り返りテスト」「コース学習案内」を充実し実践したい。
- ・単元評価計画の評価基準(指導の手だて)を活用し、個に応じた指導を充実したい。
- ・補充教材等の教材の充実を図り、個に応じた指導を充実したい。

学力等把握のための学校として取組

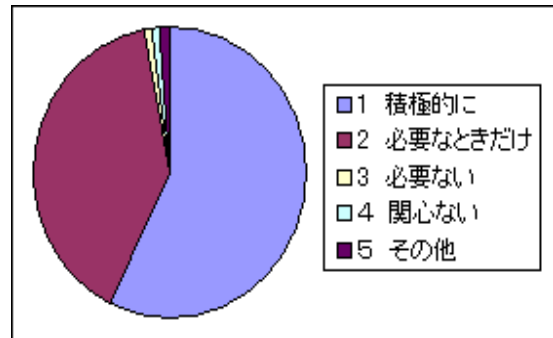
- ・学力検査の実施により、算数科の学力実態把握をおこなった。
- ・算数科において確かな学力を身に付けさせるためには、少人数指導の導入が不可欠であるという共通理解のもと、全員で授業研究をおこない授業の工夫改善に努めた。
- ・少人数指導を効果的に実施するために、児童・保護者の少人数指導に関する意識調査を実施した。

児童・保護者の少人数指導に関する意識調査(一部抜粋)

児童	コース別学習やITで学習することをどう思いますか。	保護者	少人数指導についてどう思いますか。	
	とてもいい	44%	積極的にすすめてほしい	57%
	まあまあいい	50%	必要なときだけ	40%
	すこしいやだ	6%	必要ない	1%
			関心がない	1%
			その他	1%



(平成15年6月実施)



(平成15年10月実施)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成 16 年度に研究発表会を予定している。(日時未定)
- ・平成 15 年度の研究成果を研究紀要・パンフレットにまとめ発行した。
- ・平成 15 年 11 月 26 日 埼葛算数数学教育研究会・小学校算数教育研究会主催による授業研究協議会を実施した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15 年度からの新規校  14 年度からの継続校

【学校規模】  6 学級以下  7~12 学級

13~18 学級  9~24 学級

25 学級

【指導体制】  少人数指導  T.T による指導

一部教科担任制  その他

【研究教科】  国語  社会  算数  理科

生活  音楽  図画工作  家庭

体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無